

情報処理教育研究センター 教授 藤原 洋一  
 ハンス・ロスリング、オーラ・ロスリング、アンナ・ロスリング・ロンランド 著  
 上杉 周作、関 美和 訳

『FACTFULNESS(ファクトフルネス)；10の思い込みを乗り越え、データを基に世界を正しく見る習慣』

日経BP社 (2019年)

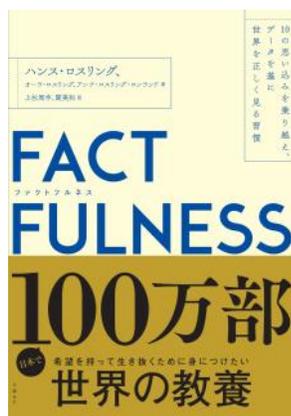
「ファクトフルネス (factfulness)」という言葉そのものは辞書にはなく、いわゆる「造語」です。その意味はタイトルにあるように「データを基に世界を正しく見る習慣」であり、また文中にも出てきますが、「自分の内にある“本能”をできる限りコントロールして事実に基づいて判断する」ということです。今から2年ほど前に刊行されたこの本は、現在のようなCOVID-19感染症を取り巻く状況下、関連する種々の情報が錯綜する中で、より大切なものの見方のひとつではないでしょうか？

さて、著者らは導入部でクイズを13個紹介しています。例えば、『クイズ1：いくらかでも電気が使える人は、世界にどのくらいいるでしょう？(選択肢；

A 20%、B 50%、C 80%)』、『クイズ2：自然災害で毎年亡くなる人の数は過去100年でどう変化したでしょう？(選択肢；A 2倍以上になった、B あまり変わっていない、C 半分以下になった)』などのクイズが用意されています。答えは省きますが(興味のある方はインターネットで調べてみるといいかもしれません・・・；正解は本書に)、どの質問も大半の人は正解率が3分の1以下であり、しかも、専門家と称する人、学歴が高い人、社会的な地位がある人ほど正解率が低いと、ここでは紹介されています。私の正解率かというと(述べませんが)、50%も正解することはできませんでした。私などは「これは私の知識が単に古いままなのでその知識をアップデートすればいいだけでは・・・」と考えてしまいましたが、著者であるハンス・ロスリングらは「完全に知識をアップデートしようとしても、その正確な姿をとらせることは困難であろう」としています。著者らはその理由を“10の本能”が引き起こす思い込みにとらわれてしまっているからだ指摘しています。その本能とは一体何なのでしょう？(興味が出てきたのではありませんか)

さらに本書では、教育、貧困、環境、エネルギー、人口など幅広い分野を取り上げて最新の統計データを紹介しつつ、“世界の正しい見方”、即ち、“10の本能”が引き起こす思い込みにとらわれず「ファクトフルネス」に考える方法を教えてくれます。本書は難しい数式や言葉もほとんど出てこないで比較的読みやすいのではないかと思います。

最後になりますが、皆さんもいろいろな問題や課題に突き当たることがあると思います。その際は是非、この「ファクトフルネス」を实践されてはいかがでしょうか？



## NEWS 2022年度オープンキャンパス開催のお知らせ

入試課

2022年度のオープンキャンパスは下記の日程で行う予定にしています。開催につきましては、新型コロナウイルス感染症の状況を考慮し決定いたします。詳細が決まり次第、本学公式サイトでお知らせいたしますのでご確認ください。

### 2022年度オープンキャンパス

〈開催日〉

2022年6月5日 (日)

2022年8月6日 (土)・7日 (日)

2022年10月9日 (日)



受験生サイト

### お問い合わせ

入試課

TEL : 075-595-4678

FAX : 075-583-2232

E-mail : kpu-koho@mb.kyoto-phu.ac.jp